

# 海難状況等について

---



	ページ
船舶事故の現状及び原因 .....	1
全体傾向 .....	2 ~ 5
ふくそう海域 .....	6 ~ 7
準ふくそう海域 .....	8 ~ 9
港内 .....	10
小型船舶 .....	11 ~ 15
計画目標に関する船舶事故状況等 .....	16
ふくそう海域における衝突・乗揚事故の低発生水準の維持 .....	17
港内等における衝突・乗揚事故の減少 .....	18
小型船舶における事故の減少 .....	19
現行交通ビジョン策定後の環境変化 .....	20
船舶の大型化 .....	21 ~ 23
AISの搭載義務化 .....	24
航路標識の整備 .....	25

# 船舶事故の現状及び原因

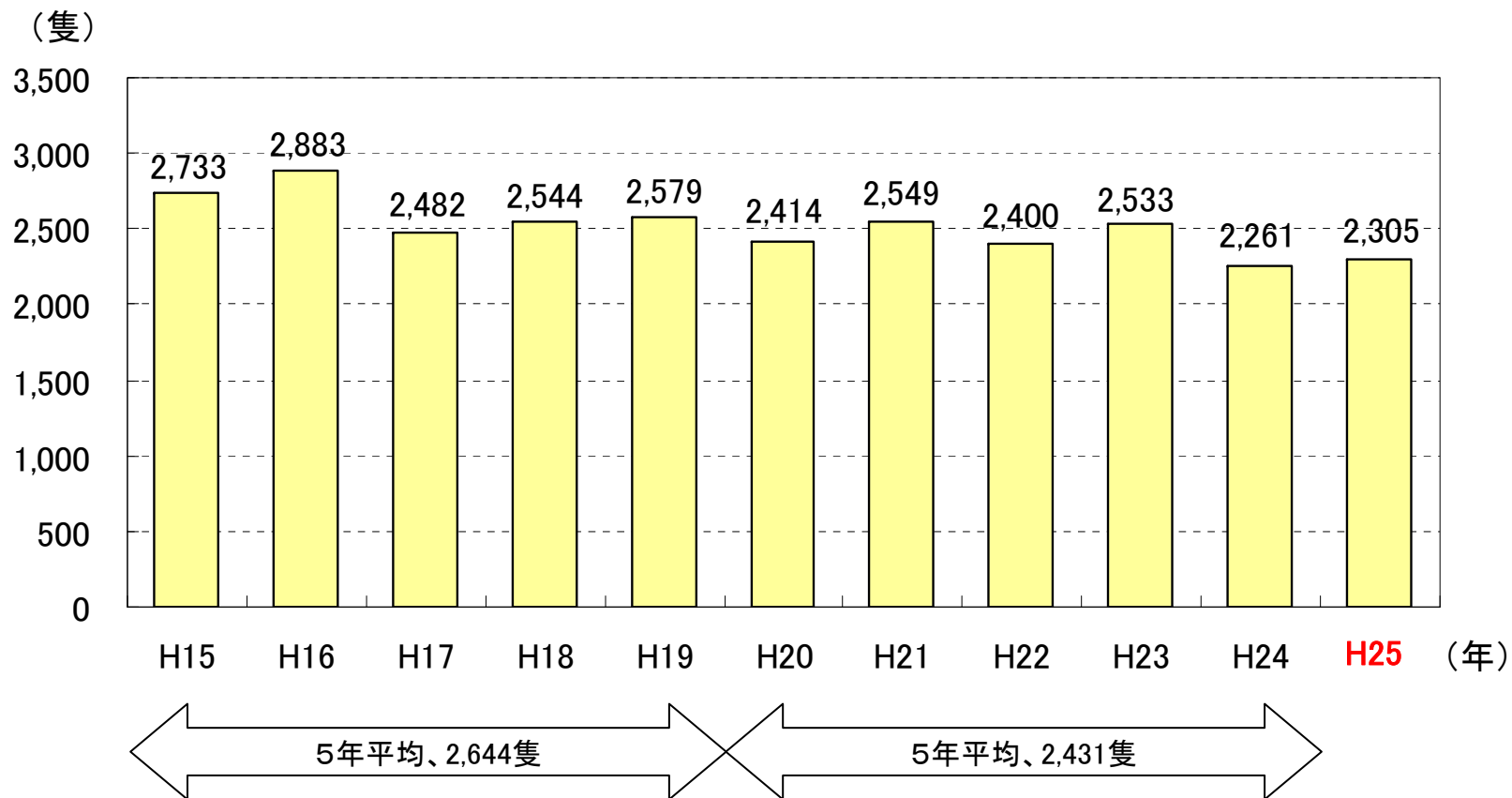
---

## 船舶事故隻数の推移

過去10年間(平成15~24年)の船舶事故の平均隻数は、約2,500隻

平成15~19年の5年平均と平成20~24年の5年平均を比較すると約1割減少

平成25年の船舶事故隻数は、**2,305隻**【速報値※】、前年と比較して、**44隻増加**(1.9%)

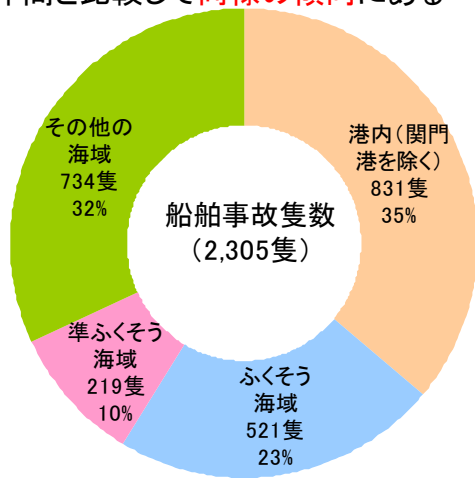


※ 数値は平成26年2月6日現在の速報値

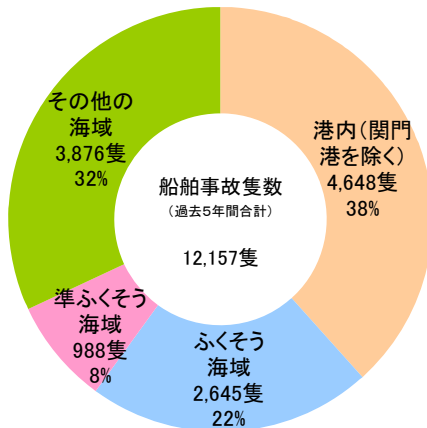
## 海域別による船舶事故隻数の割合

平成25年【速報値※】

4割が、港内で発生、2割が、ふくそう海域で発生  
過去5年間と比較して同様の傾向にある

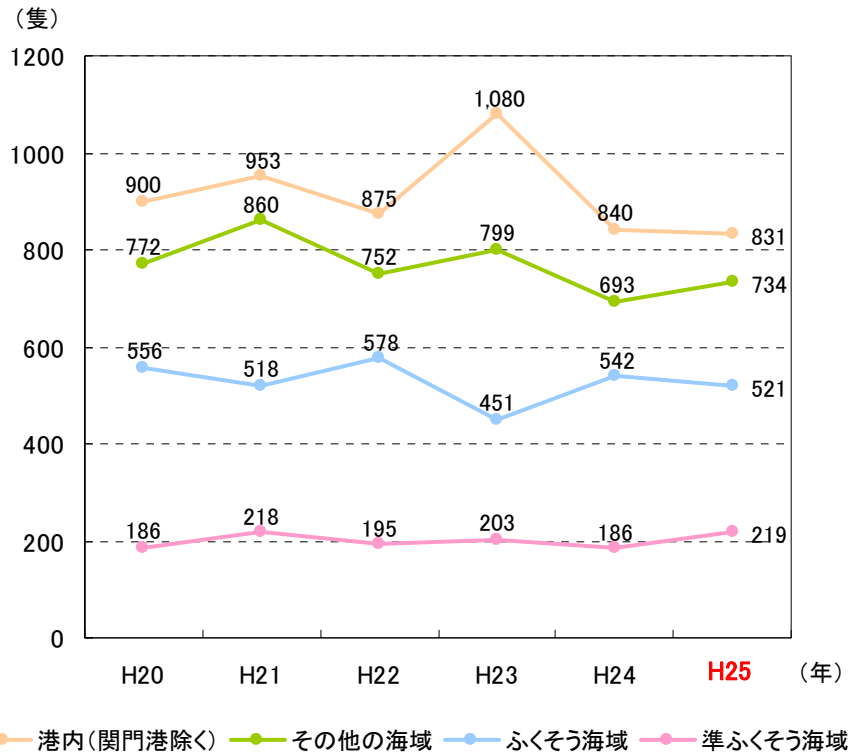


過去5年間(平成20から24年の合計)



## 海域別による船舶事故隻数の推移

前年と比較して、港内で9隻減少(1.1%)、その他の海域で41隻増加(5.9%)、  
ふくそう海域で21隻減少(3.9%)、準ふくそう海域で33隻増加(17.7%)

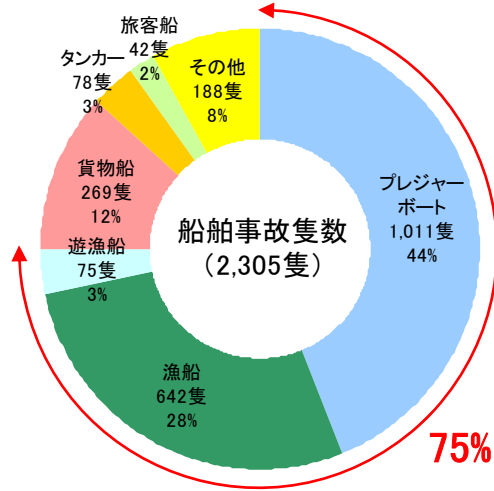


※ふくそう海域  
東京湾、伊勢湾、瀬戸内海及び関門港（海上交通安全法適用海域又は港則法適用海域）  
※準ふくそう海域  
ふくそう海域を結ぶ東京湾湾口～石廊崎沖～伊勢湾口～潮岬沖～室戸岬沖～足摺岬沖の各海域を経て瀬戸内海に至る海域

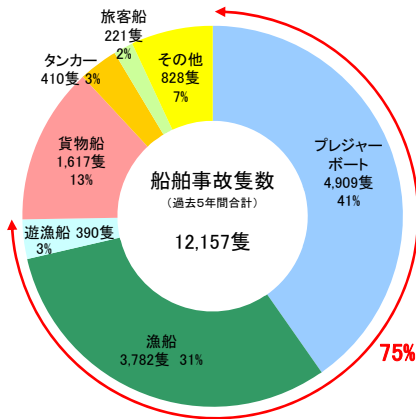
## 船舶種類別の割合

平成25年【速報値※】

7割が、小型船舶(プレジャーボート、漁船、遊漁船)の事故  
過去5年間と比較して同様の傾向にある

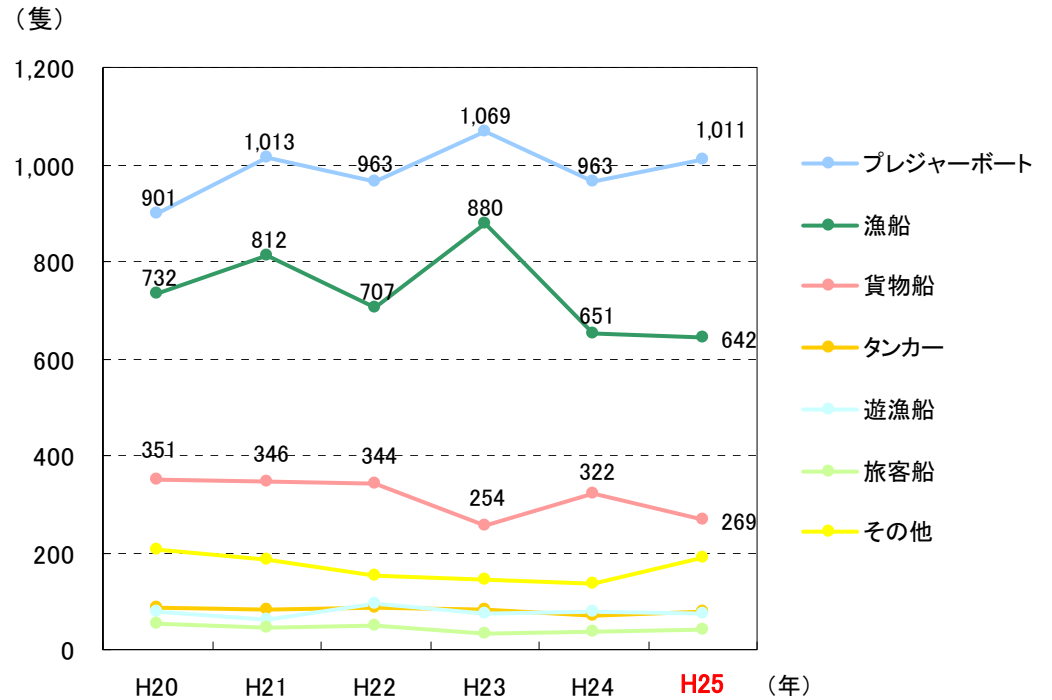


過去5年間(平成20から24年の合計)



## 船舶種類別の推移

前年と比較して、プレジャーボートが48隻増加(5.0%)、  
漁船が9隻減少(1.4%)、貨物船が53隻減少(16.5%)



※山陰地方豪雪関連事故(浸水)を含む

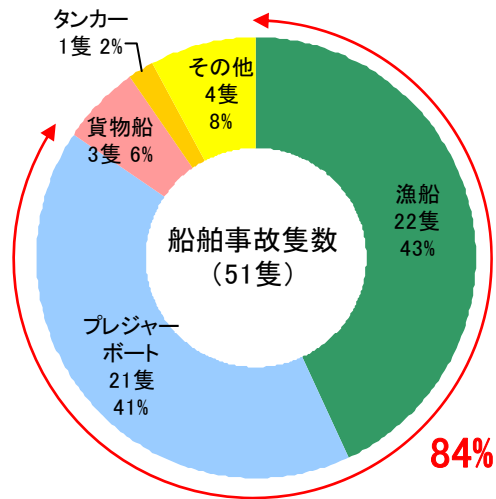
〈内訳〉

・H22:6隻(漁船2隻、プレジャーボート4隻)

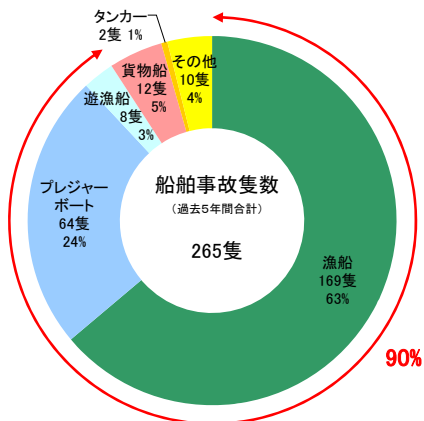
・H23:346隻(漁船215隻、遊漁船8隻、プレジャーボート119隻、その他4隻)

## 死者・行方不明者を伴う船舶事故隻数の割合

平成25年【速報値※】 **8割が、小型船舶の事故**

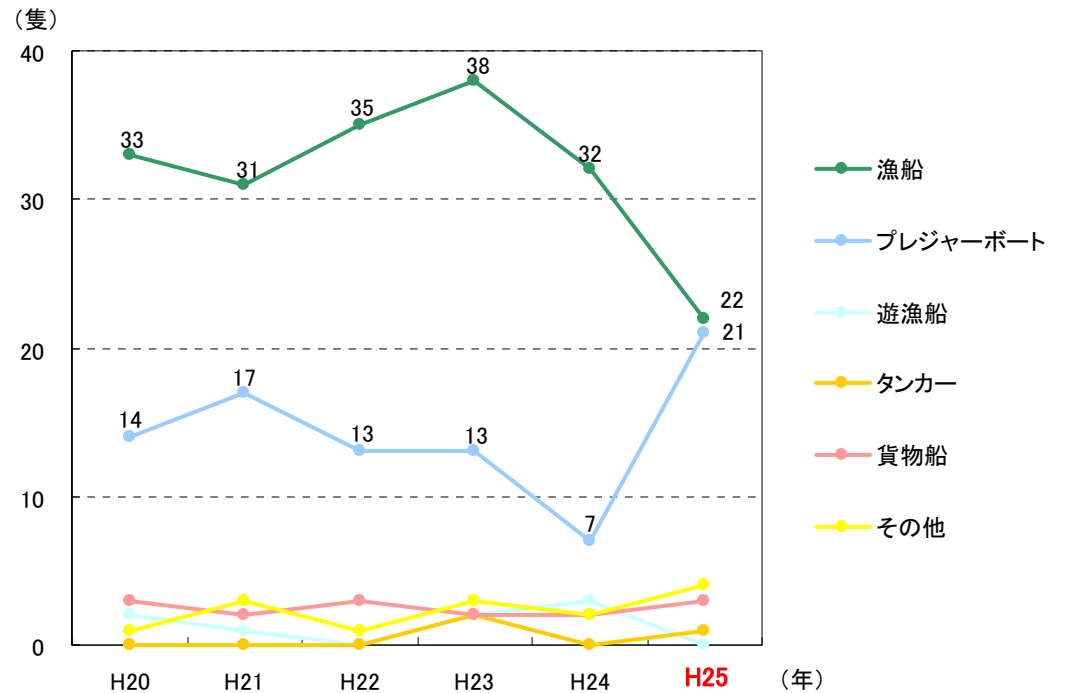


過去5年間 (平成20から24年の合計)



## 死者・行方不明者を伴う船舶事故隻数の推移

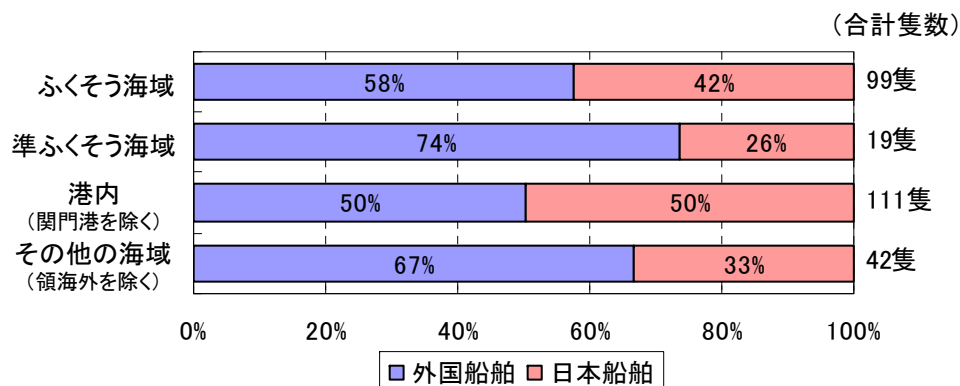
平成25年の死者・行方不明者を伴う船舶事故隻数は、**51隻**、前年と比較して、**5隻増加** (10.9%)、プレジャーボートが**14隻増加** (200%)、漁船が**10隻減少** (31.3%)



※ 数値は平成26年2月6日現在の速報値

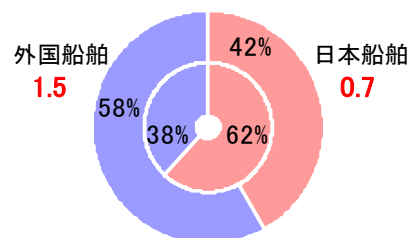
## 海域別における外国船舶と日本船舶の事故 隻数の割合 (AIS搭載船舶)

平成25年



## ふくそう海域における外国船舶の事故発生率 (AIS搭載船舶)

平成25年



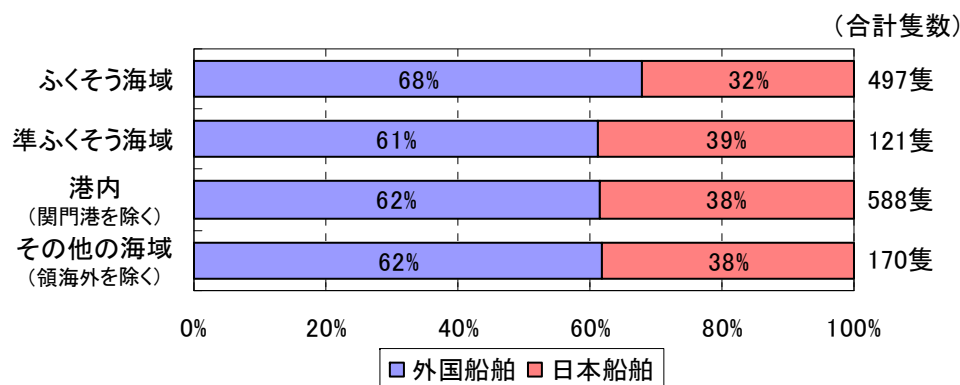
外国船舶の事故発生率 ※  
は日本船舶の 約2倍

※外国船舶の事故発生率

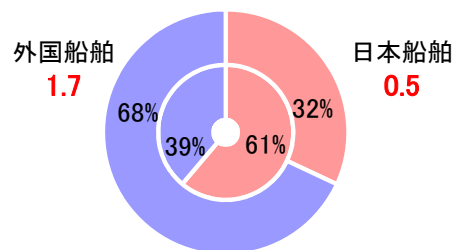
$$\frac{\text{外国船舶の事故発生指数}}{\text{日本船舶の事故発生指数}} = \frac{58/38}{42/62} \div 2.3$$

赤 字 : 各船舶の事故発生指数  
内円グラフ : AIS搭載船舶の通航割合  
(1日あたり約2,200隻)  
外円グラフ : AIS搭載船舶の事故発生割合  
(平成25年の合計 : 99隻)

## 過去5年間(平成20年から24年の合計)



## 過去5年間(平成20年から24年の合計)



外国船舶の事故発生率 ※  
は日本船舶の 約3倍

※外国船舶の事故発生率

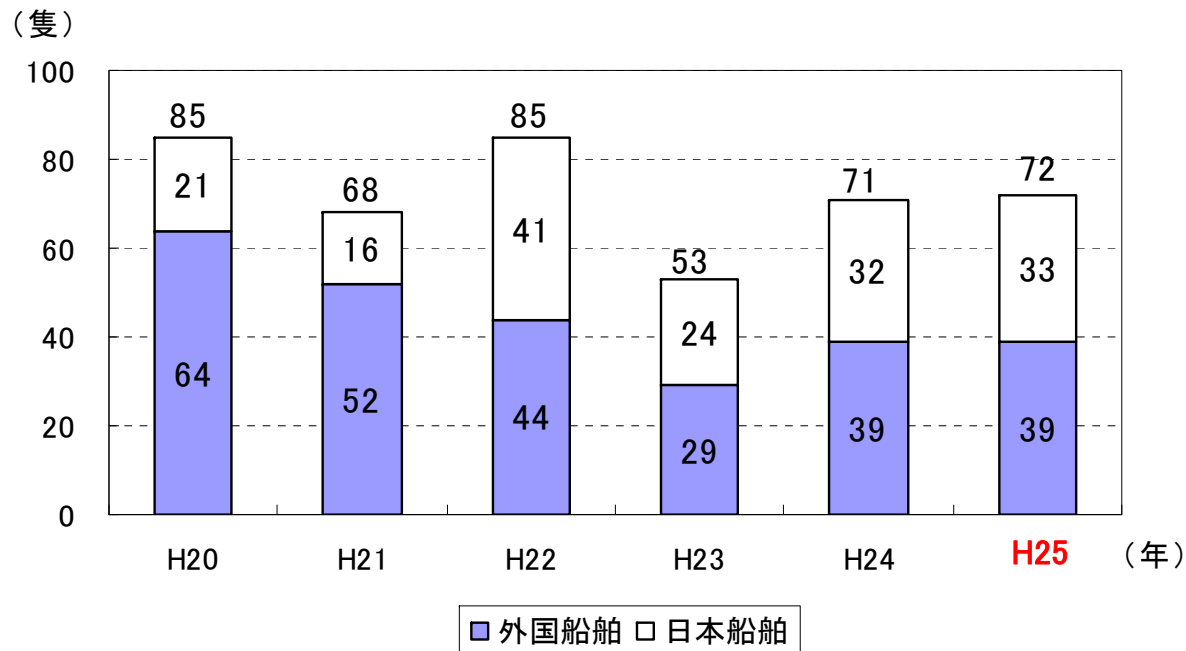
$$\frac{\text{外国船舶の事故発生指数}}{\text{日本船舶の事故発生指数}} = \frac{68/39}{32/61} \div 3$$

赤 字 : 各船舶の事故発生指数  
内円グラフ : AIS搭載船舶の通航割合  
(1日あたり約2,300隻)  
外円グラフ : AIS搭載船舶の事故発生割合  
(平成20~24年の合計 : 497隻)



## ふくそう海域における衝突・乗揚事故隻数の推移(AIS搭載船舶)

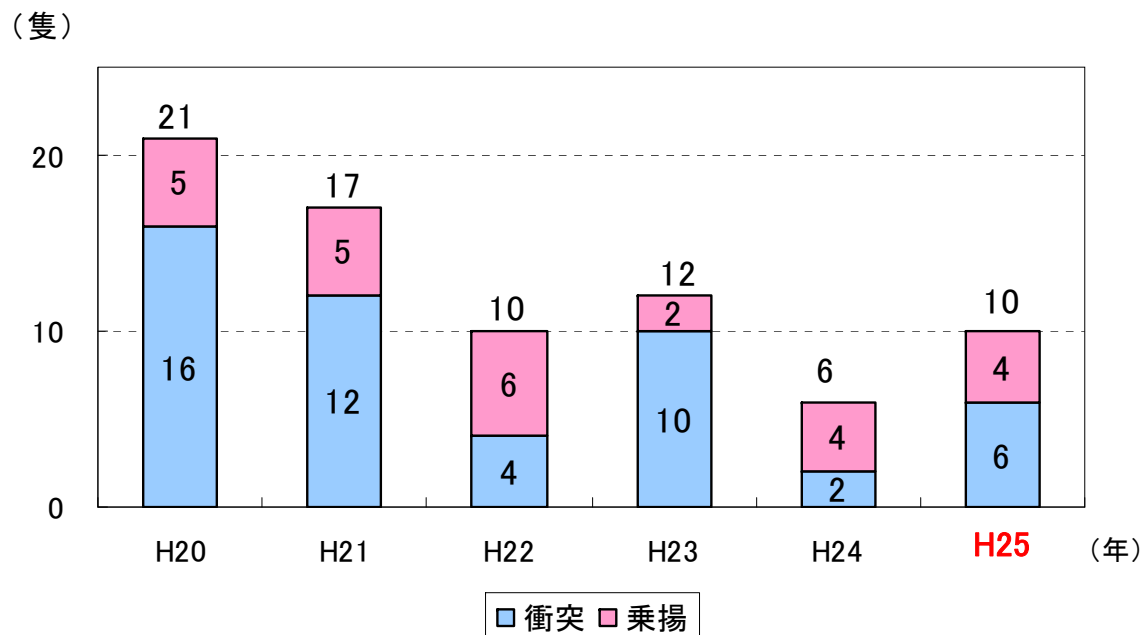
前年と比較して外国船舶は**横ばい**、日本船舶は**1隻増加**



※ 数値は平成26年2月6日現在の速報値

## 準ふくそう海域における衝突・乗揚事故隻数の推移(総トン数100トン以上)

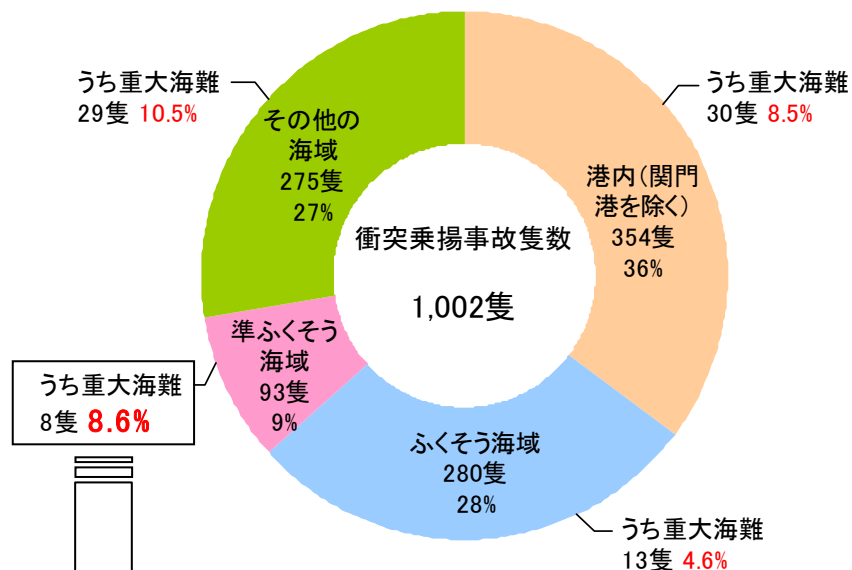
前年と比較して衝突事故が4隻増加、乗揚事故は横ばい



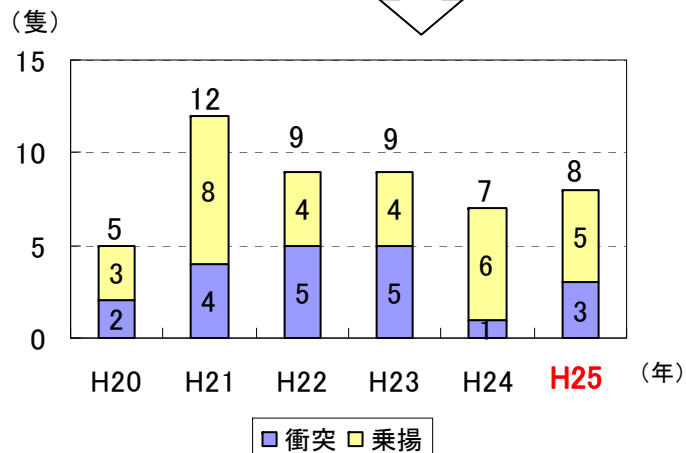
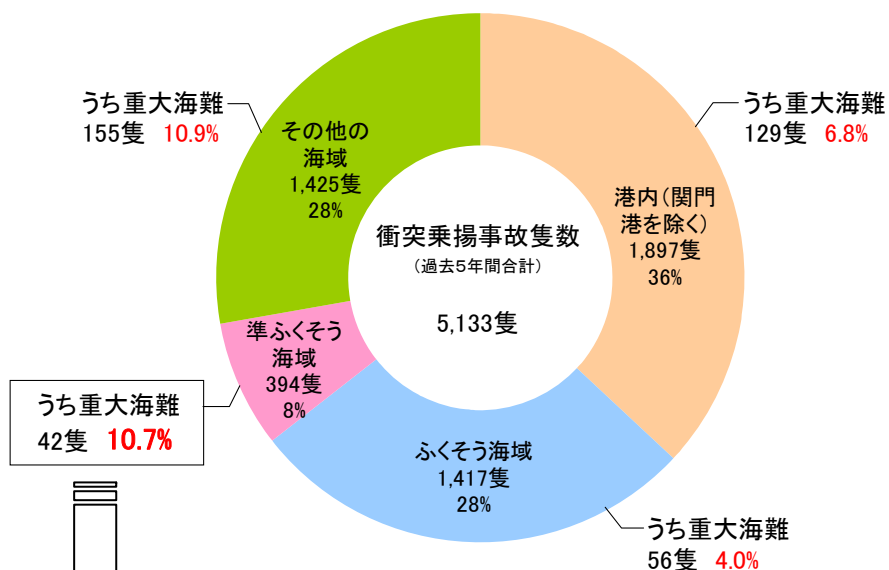
※ 衝突事故にあつては、100トン以上の船舶同士に限る

## 海域別における衝突・乗揚事故隻数と重大海難の割合

平成25年



過去5年間(平成20年から24年の合計)

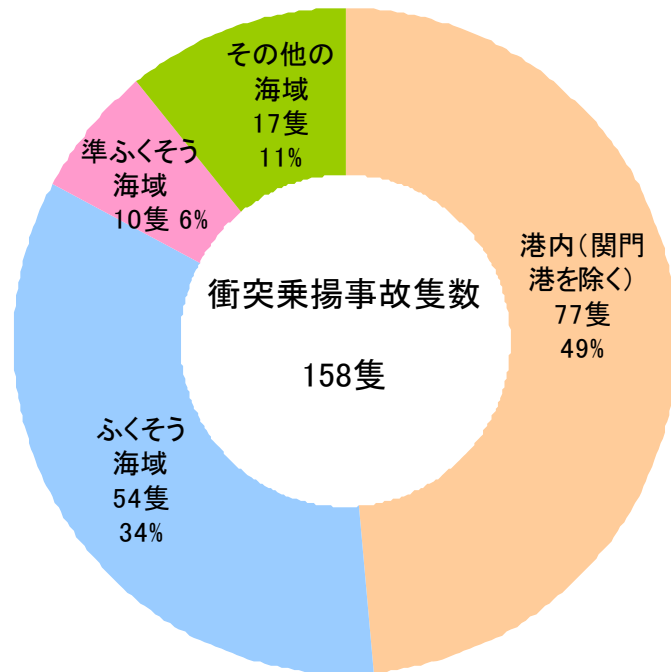


※重大海難  
死者・行方不明者、沈没・全損、油の流出等を伴う船舶事故

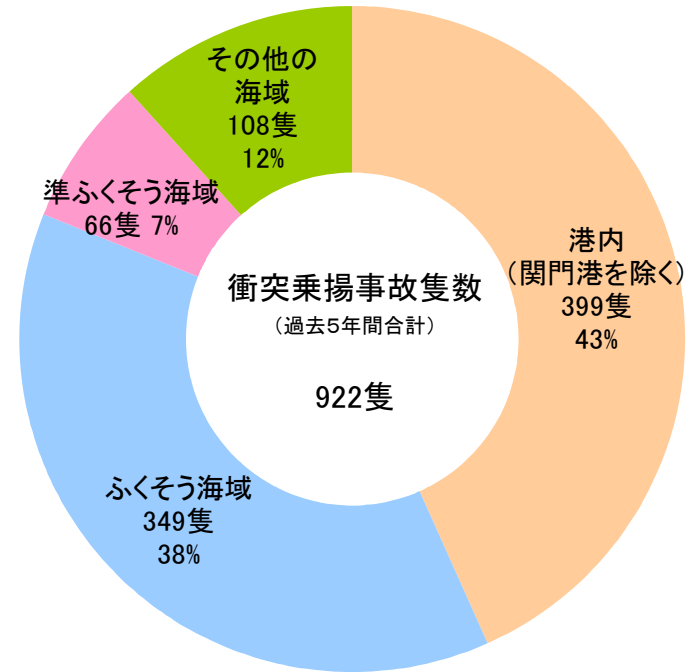
※ 数値は平成26年2月6日現在の速報値

## 海域別における衝突・乗揚事故隻数の割合（総トン数100トン以上）

平成25年



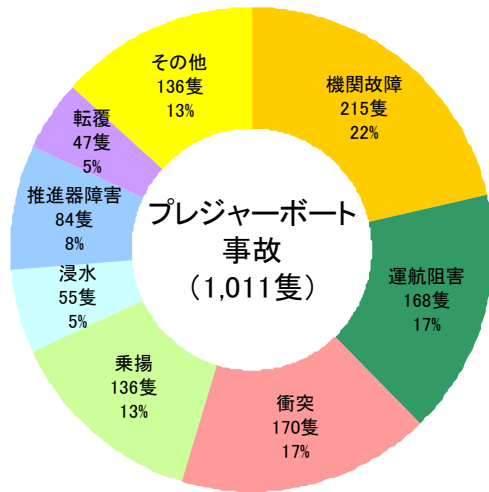
過去5年間(平成20年から24年の合計)



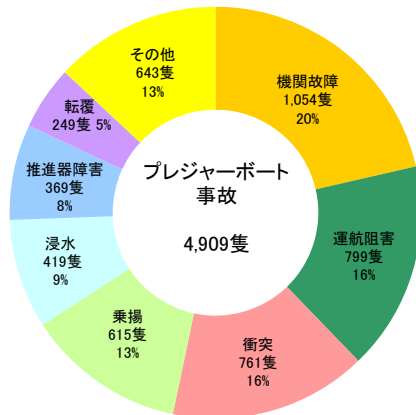
※ 衝突事故にあっては、100トン以上の船舶同士に限る

## プレジャーボートの事故種類別の割合 平成25年【速報値※】

過去5年間と比較して同様の傾向にある

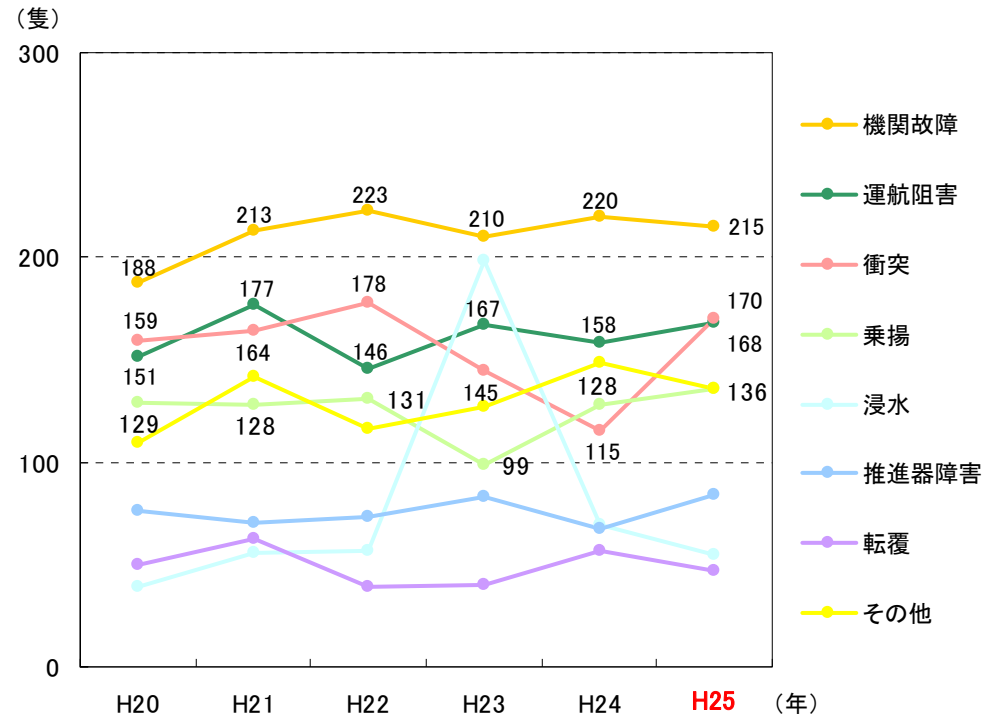


## 過去5年間(平成20から24年の合計)



## プレジャーボートの事故種類別の推移

前年と比較して、機関故障が5隻減少(2.3%)、衝突が55隻増加(47.8%)、運航阻害が10隻増加(6.3%)、乗揚が8隻増加(6.3%)

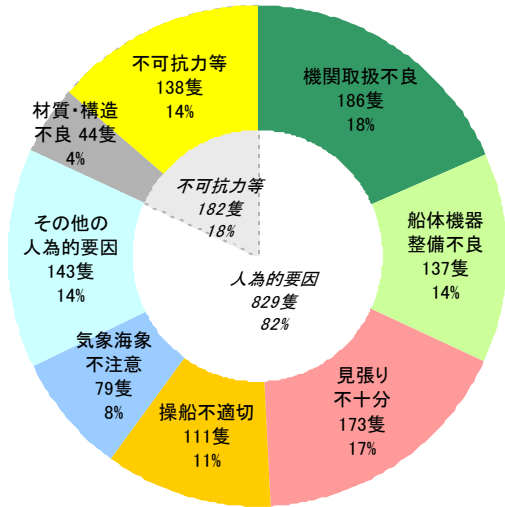


※浸水：山陰地方豪雪関連事故（H22：4隻、H23：119隻）を含む

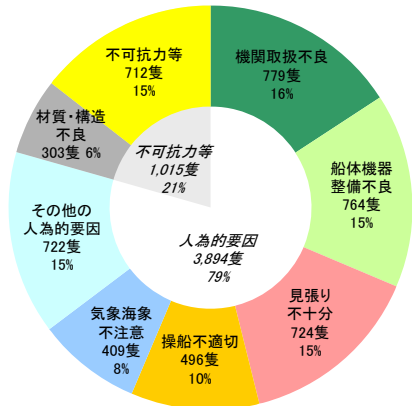
※プレジャーボート：

モーターボート、ミニボート、ヨット、手漕ぎボート、水上オートバイ

## プレジャーボートの事故原因別の割合 平成25年【速報値※】

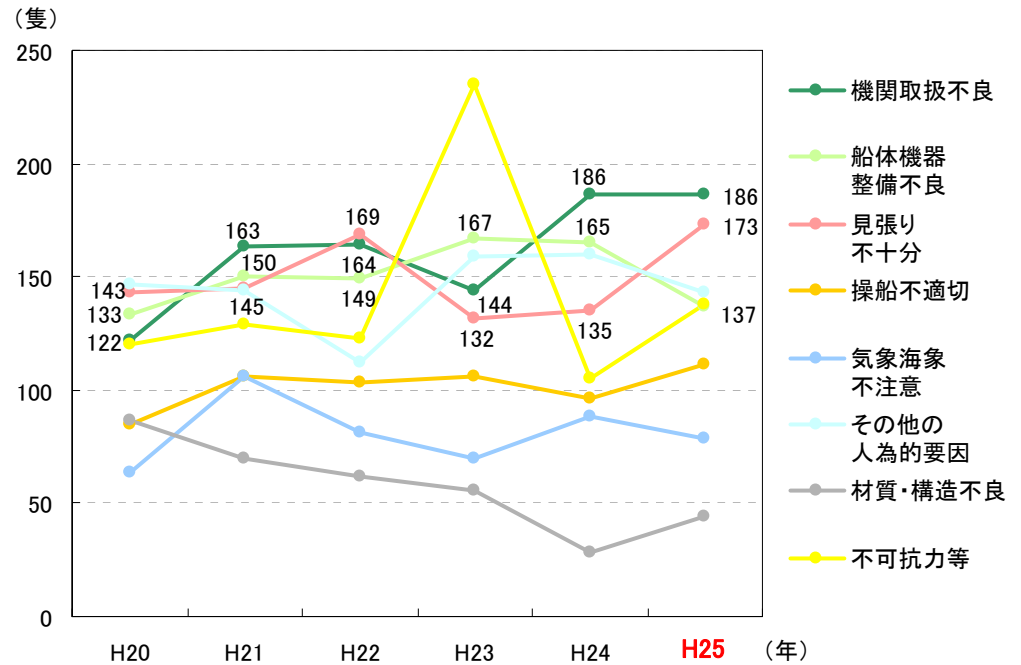


## 過去5年間(平成20から24年の合計)



## プレジャーボートの事故原因別の推移

前年と比較して、機関取扱不良が横ばい、  
見張り不十分が**38隻増加**(28.1%)、  
船体機器整備不良が**28隻減少**(17.0%)



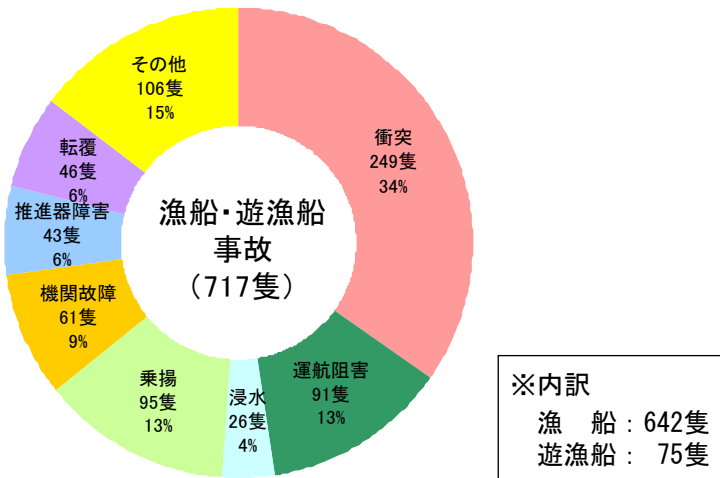
※不可抗力等：山陰地方豪雪関連事故（H22：4隻、H23：119隻）を含む  
※プレジャーボート：  
モーターボート、ミニボート、ヨット、手漕ぎボート、水上オートバイ

## 漁船・遊漁船の事故種類別の割合

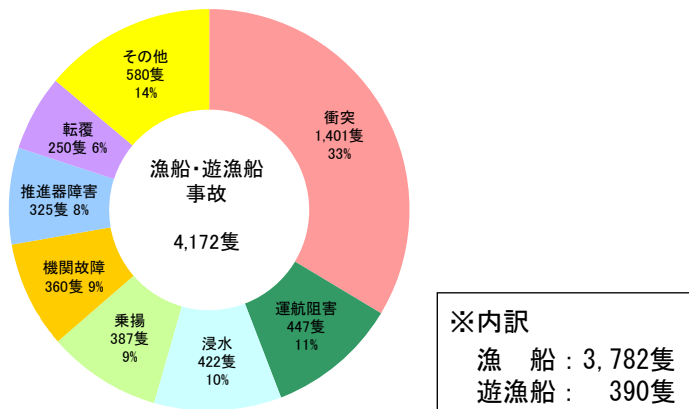
平成25年【速報値※】

3割が、衝突

過去5年間と比較して同様の傾向にある

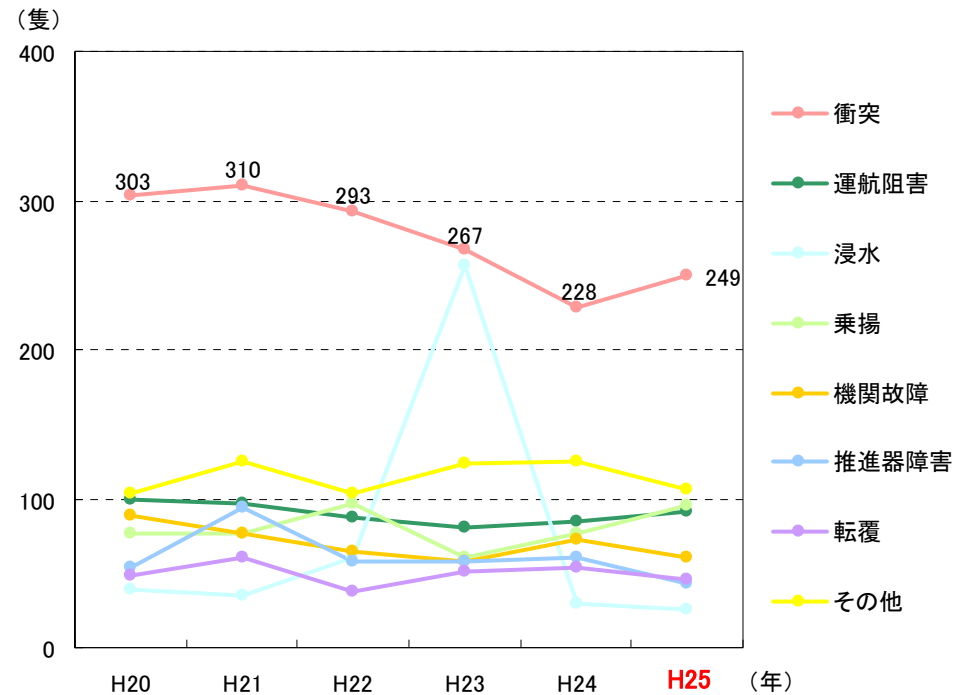


過去5年間(平成20から24年の合計)



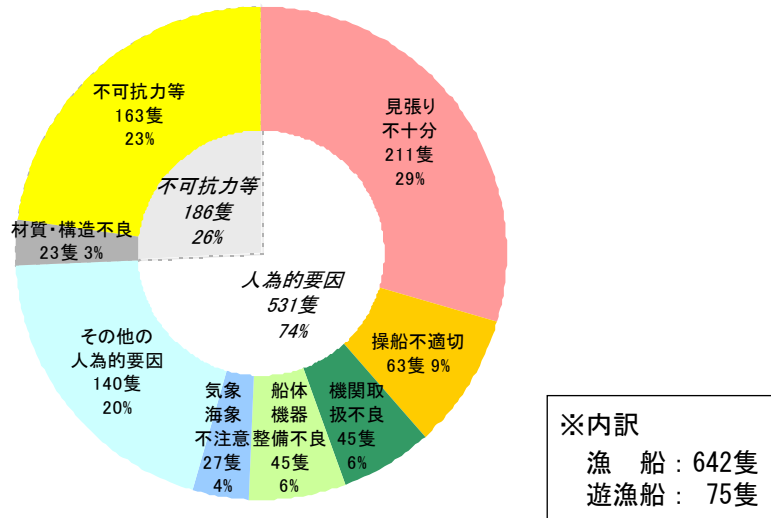
## 漁船・遊漁船の事故種類別の推移

前年と比較して、衝突が21隻増加(9.2%)

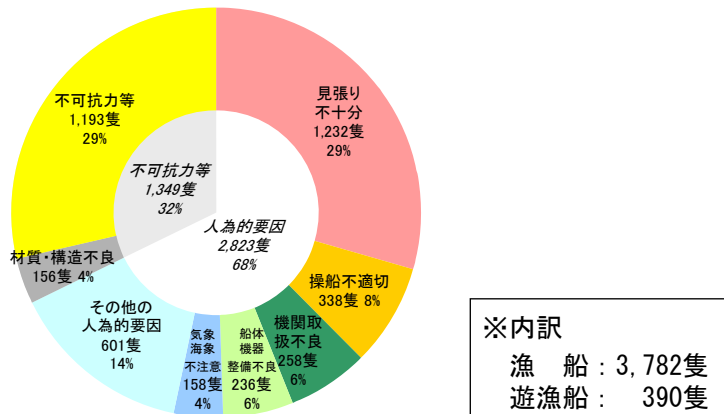


※浸水：山陰地方豪雪関連事故(H22：2隻、H23：223隻)を含む

## 漁船・遊漁船の事故原因別の割合 平成25年【速報値※】

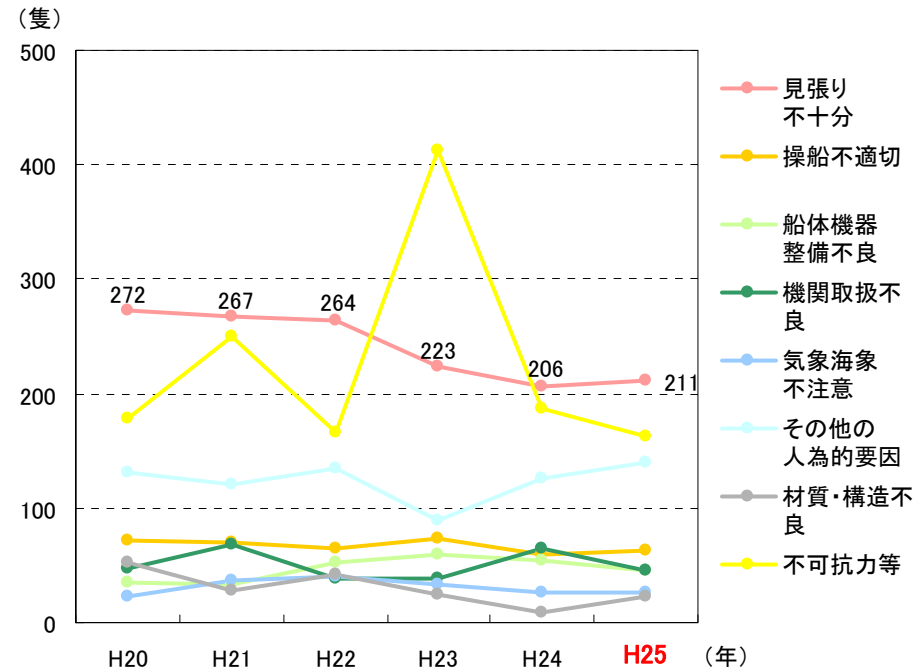


## 過去5年間(平成20から24年の合計)



## 漁船・遊漁船の事故原因別の推移

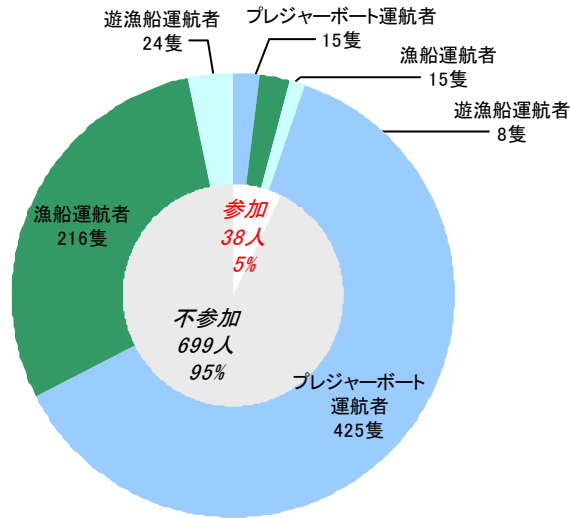
前年と比較して、見張り不十分が**5隻増加**(2.4%)



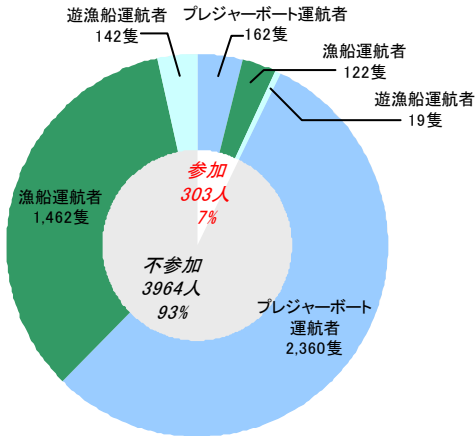
※不可抗力等：山陰地方豪雪関連事故（H22：2隻、H23：223隻）を含む



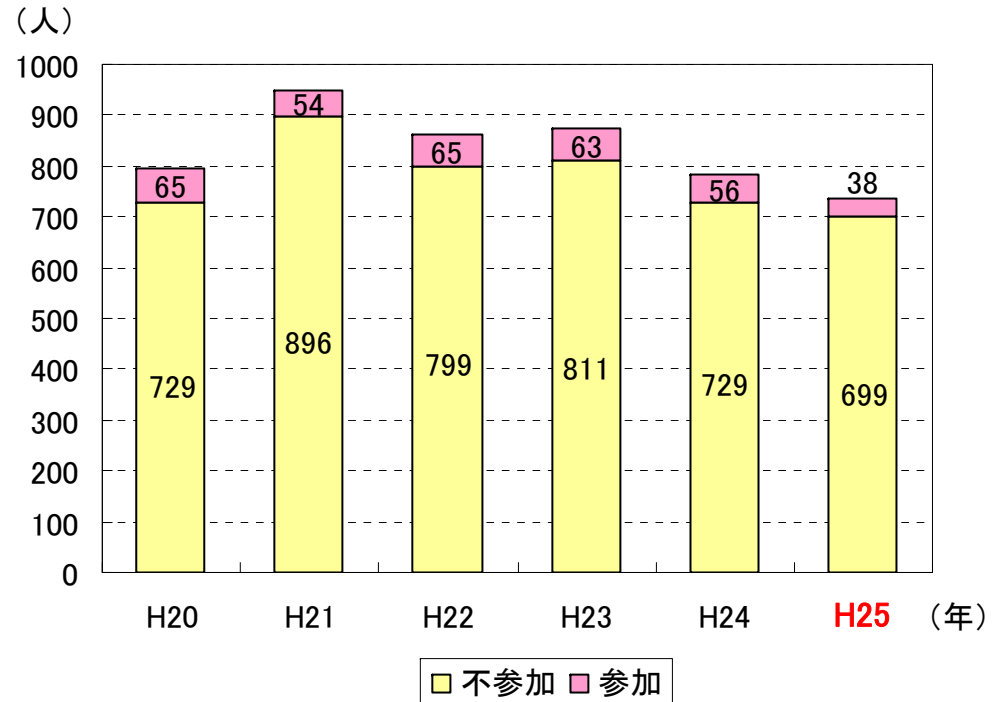
## 小型船舶事故の当事者における海難防止講習会<sup>(注)</sup>の参加状況の割合 平成25年【速報値※】



## 過去5年間(平成20から24年の合計)



## 小型船舶事故の当事者における海難防止講習会<sup>(注)</sup>の参加状況の推移



(注) 海難防止講習会

海上保安庁及び小型船安全協会が実施した海難防止講習会に限定（漁協、マリーナ等の任意団体が独自に実施した講習会を除く）

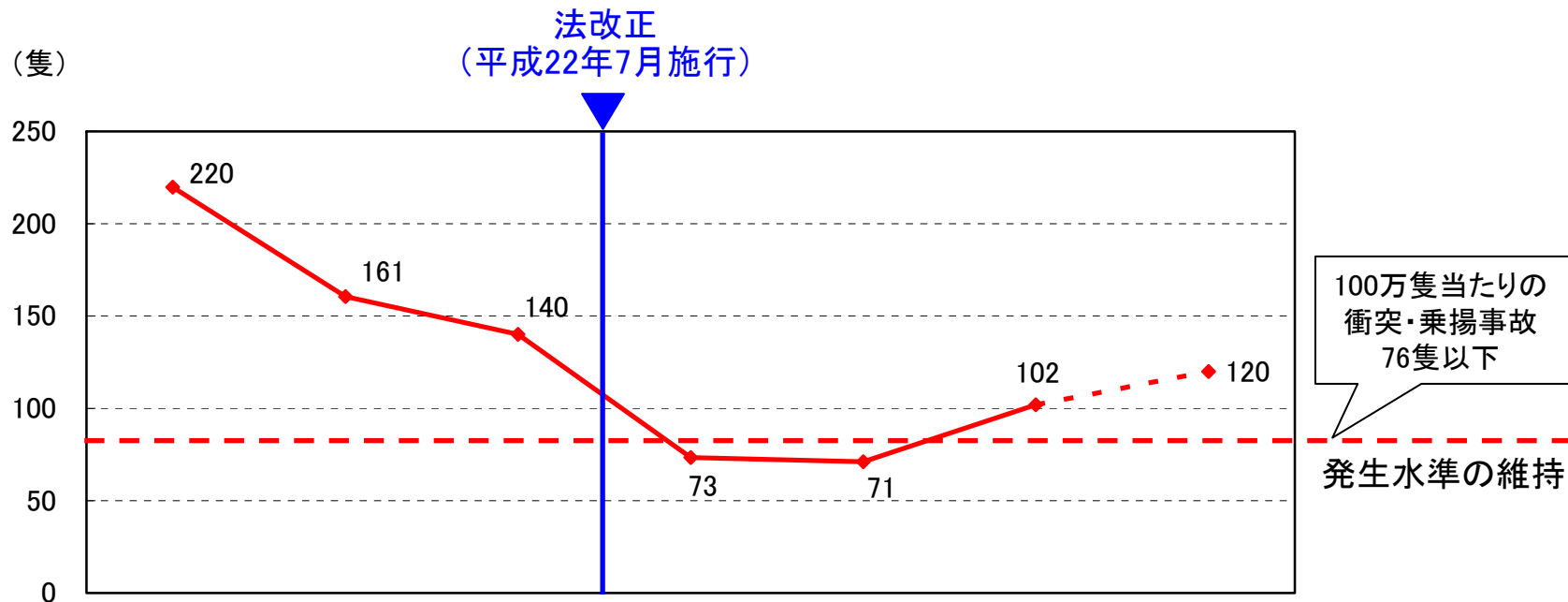
※ 数値は平成26年2月6日現在の速報値で、海難防止講習会の参加状況の未回答者を除く

# 計画目標に関する船舶事故状況等

---

# ふくそう海域における衝突・乗揚事故の低発生水準の維持

ふくそう海域におけるAIS搭載船舶通航隻数100万隻当たりの衝突・乗揚事故発生の推移



	H19.7-H20.6	H20.7-H21.6	H21.7-H22.6	H22.7-H23.6	H23.7-H24.6	H24.7-H25.6	H25.7-H25.12
事故隻数	79	66	60	33	34	51 <sup>注</sup>	31 <sup>※</sup>
AIS通航隻数	359,377	410,988	428,452	449,725	478,168	500,423	258,563

対象海域：航路及び航路付近海域(海上交通センターのレーダーサービスエリア)  
 ただし、名古屋港海上交通センターの全海域及び関門港以外の港域を除く

対象事故隻数：総トン数100トン以上の船舶又はAIS搭載船舶

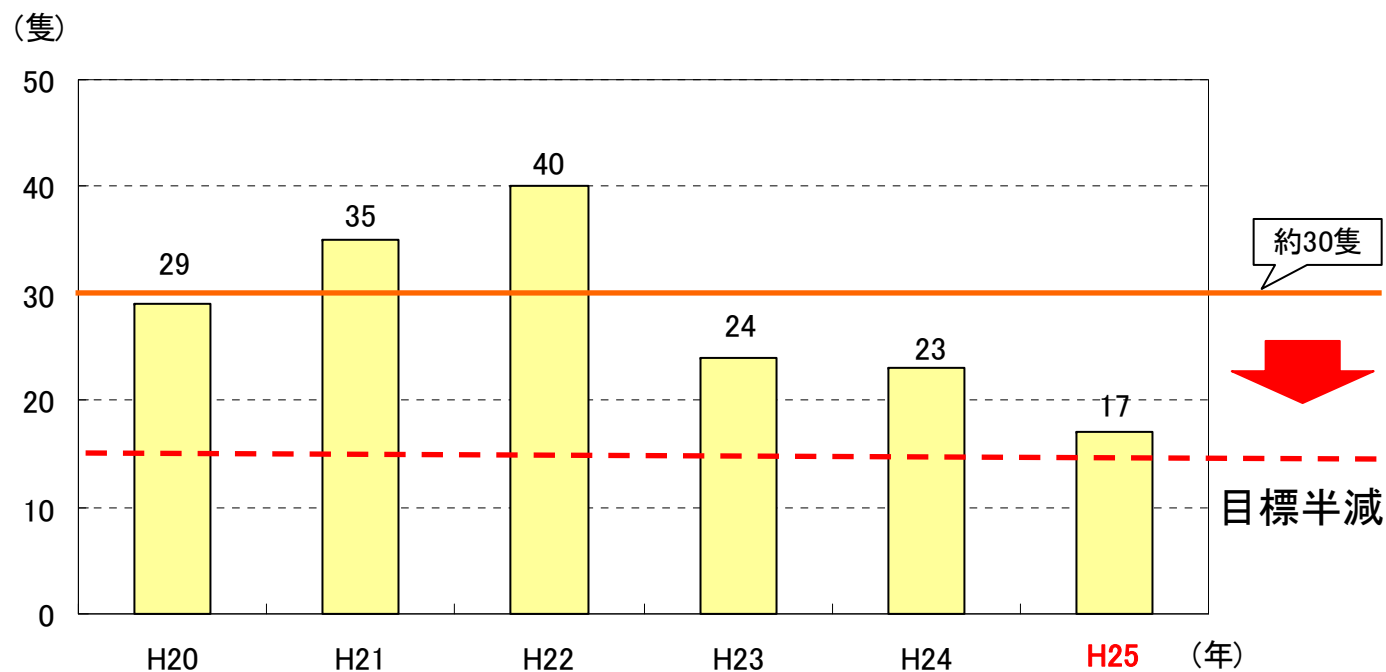
AIS通航隻数：海上交通センター(名古屋港海上交通センターを除く)の情報提供可能海域内の航路を通航したAIS搭載船舶

注) 答申では42隻(速報値)ですが、対象海域等を精査したところ、51隻(速報値)となっております。

# 港内等における衝突・乗揚事故の減少

対象海域は、東京湾(情報聴取義務海域を除く海域)、京浜港及び千葉港  
過去5年間(平成20~24年)の船舶事故の平均隻数は、約30隻(151隻/5年間)  
平成25年の船舶事故隻数は、**17隻**【速報値※】

## 港内等における衝突・乗揚事故発生の推移

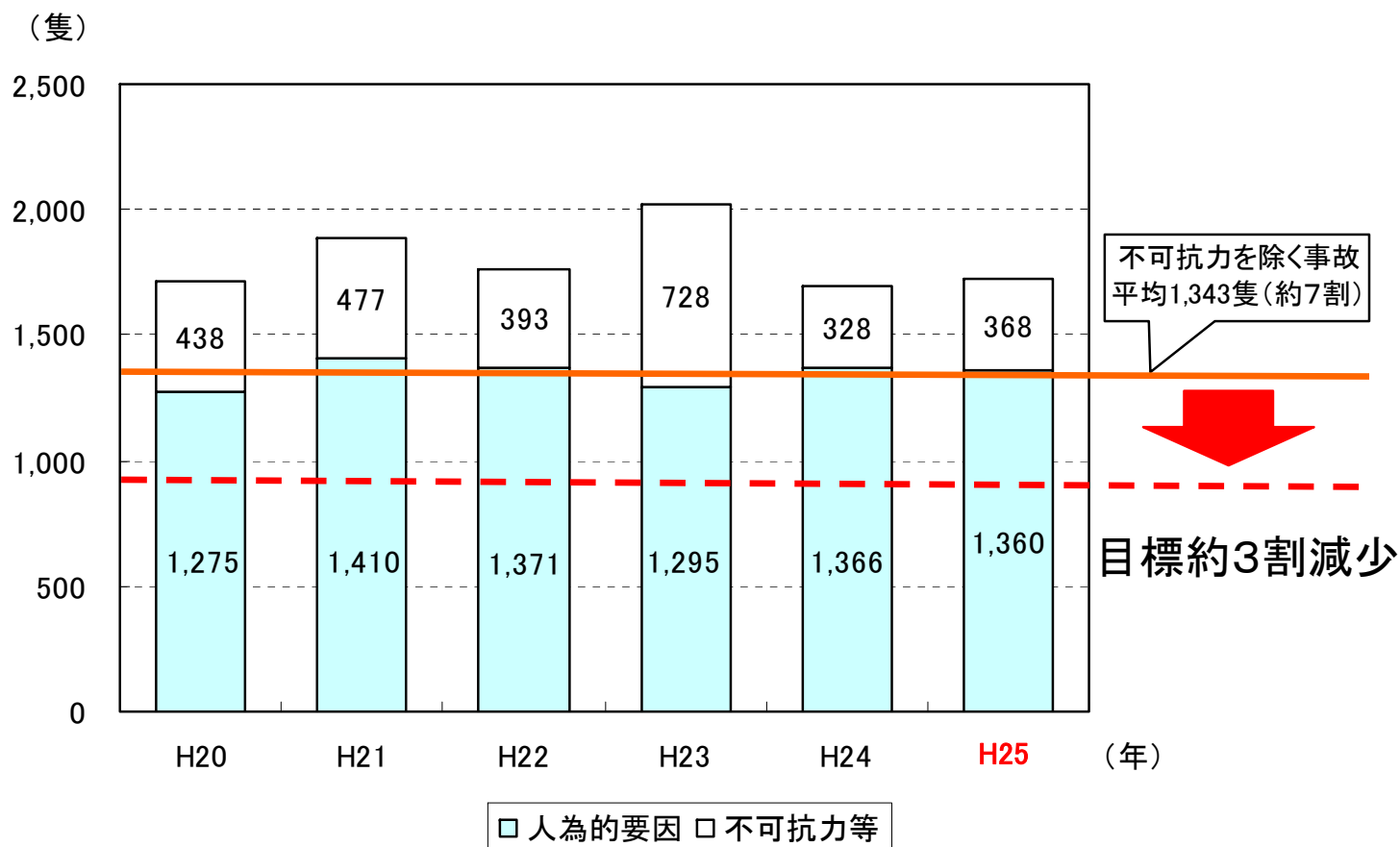


対象海域：東京湾(情報聴取義務海域を除く)、京浜港、千葉港  
対象事故隻数：総トン数100トン以上の船舶

## 小型船舶における事故発生の推移

過去5年間(平成20~24年)の小型船舶事故の平均隻数は、1,343隻(6,717隻/5年間)

平成25年の船舶事故隻数は、**1,360隻【速報値※】**

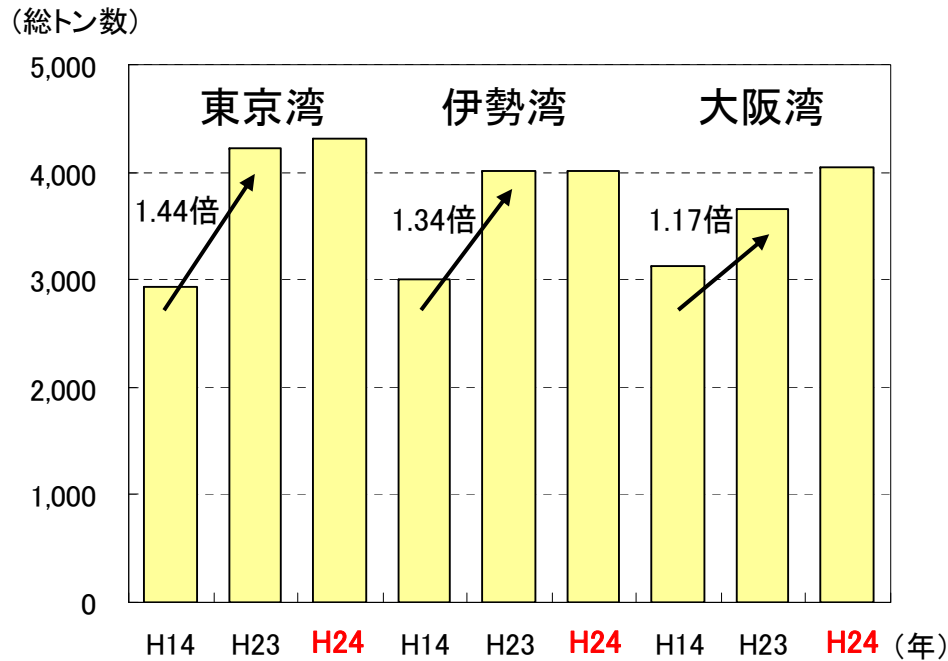


※ 数値は平成26年2月6日現在の速報値

# 現行交通ビジョン策定後の環境変化

---

## 入港船舶の大型化



(凡例)

1隻当たりの総トン数の大きさ = 入港延べ総トン数 / 入港隻数

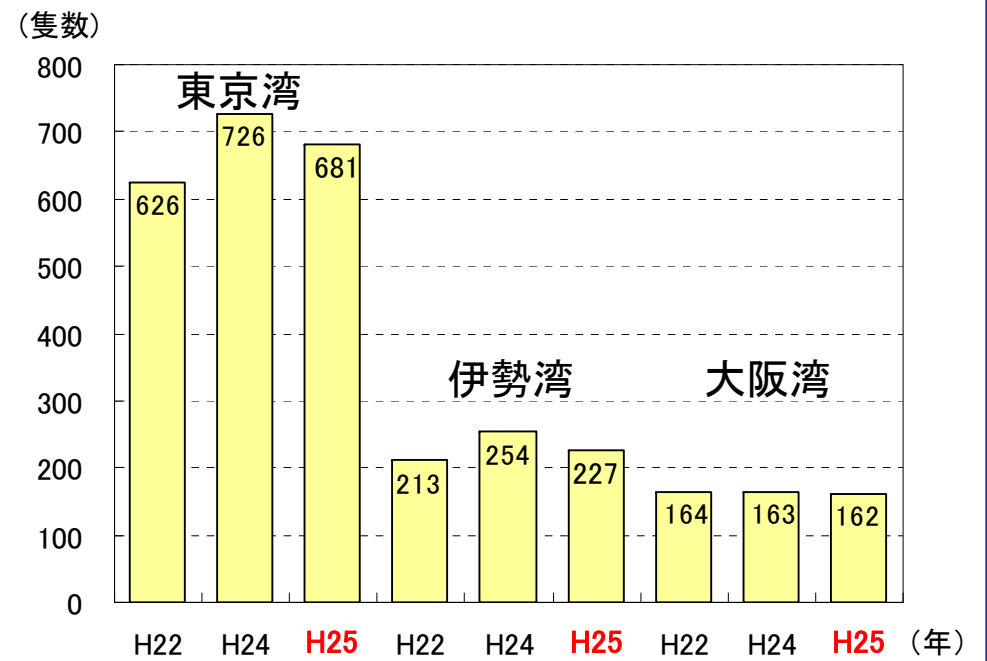
○東京湾 木更津、千葉、東京、川崎、横浜、横須賀の6港

○伊勢湾 三河、衣浦、名古屋、四日市、津松阪の5港

○大阪湾 堺南、堺泉北、大阪、尼崎西宮芦屋、神戸の5港

(出典:国土交通省「港湾統計」から作成)

## LNG運搬船の推移



(凡例)

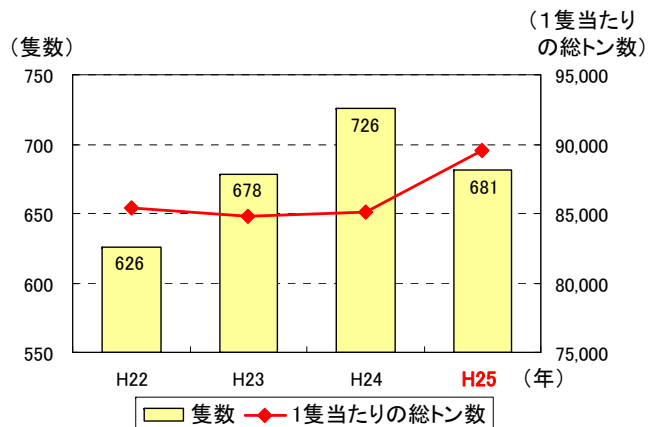
○東京湾 木更津、千葉、川崎、横浜の4港

○伊勢湾 三河、衣浦、名古屋、四日市の4港

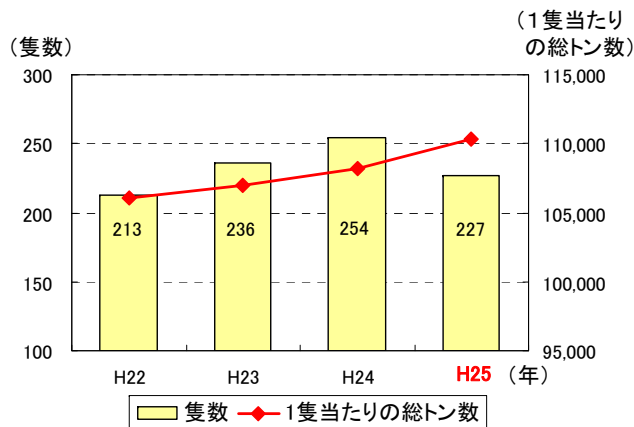
○大阪湾 堺泉北、大阪、神戸の3港

(出典:海上保安庁)

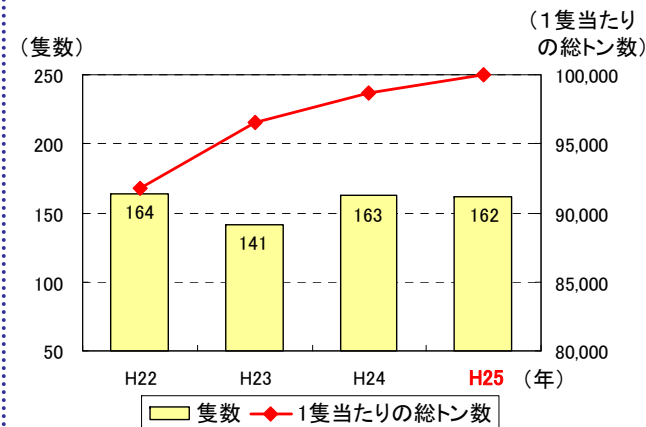
## 東京湾



## 伊勢湾

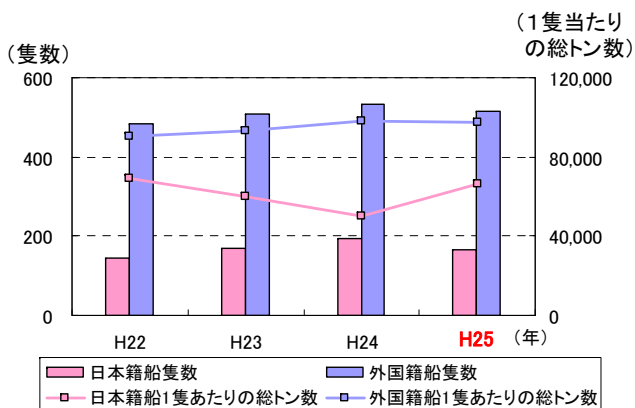


## 大阪湾

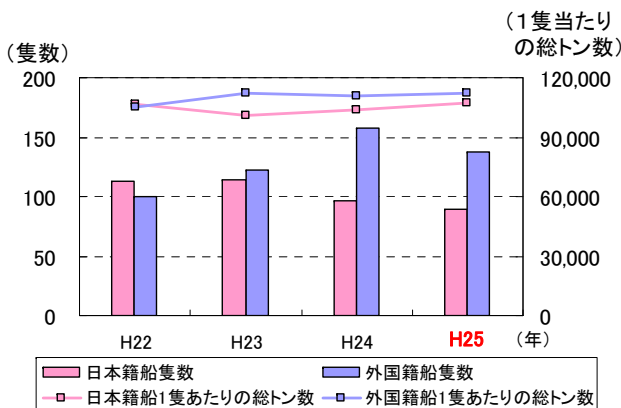


平成25年の傾向  
 ➡ 1隻当たりの総トン数は増加

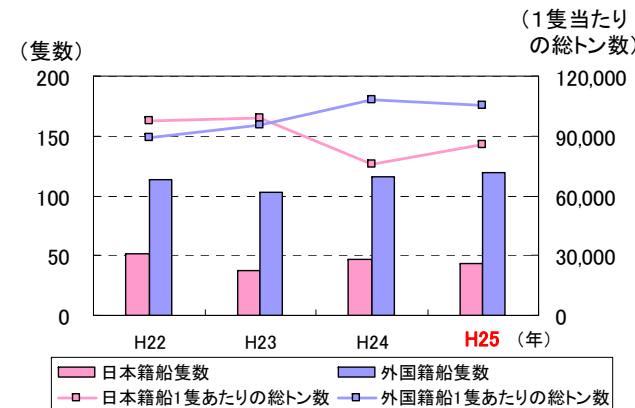
## 日本籍船と外国船籍との比較



## 日本籍船と外国船籍との比較



## 日本籍船と外国船籍との比較

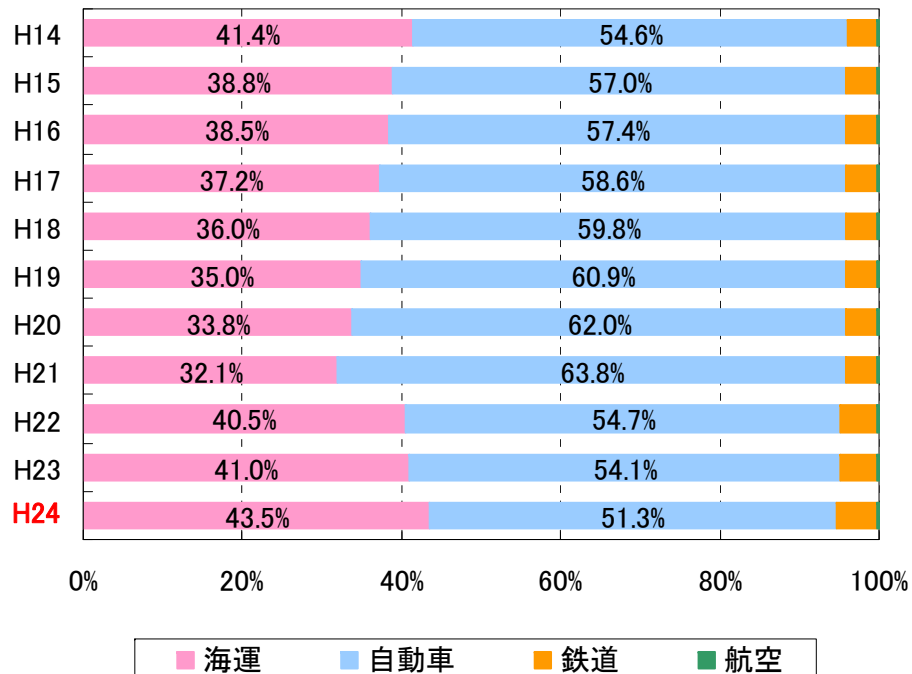




# 船舶の大型化(我が国の貨物輸送における船舶輸送の現況) 資料1

## 国内貨物輸送の機関別割合

(年度)

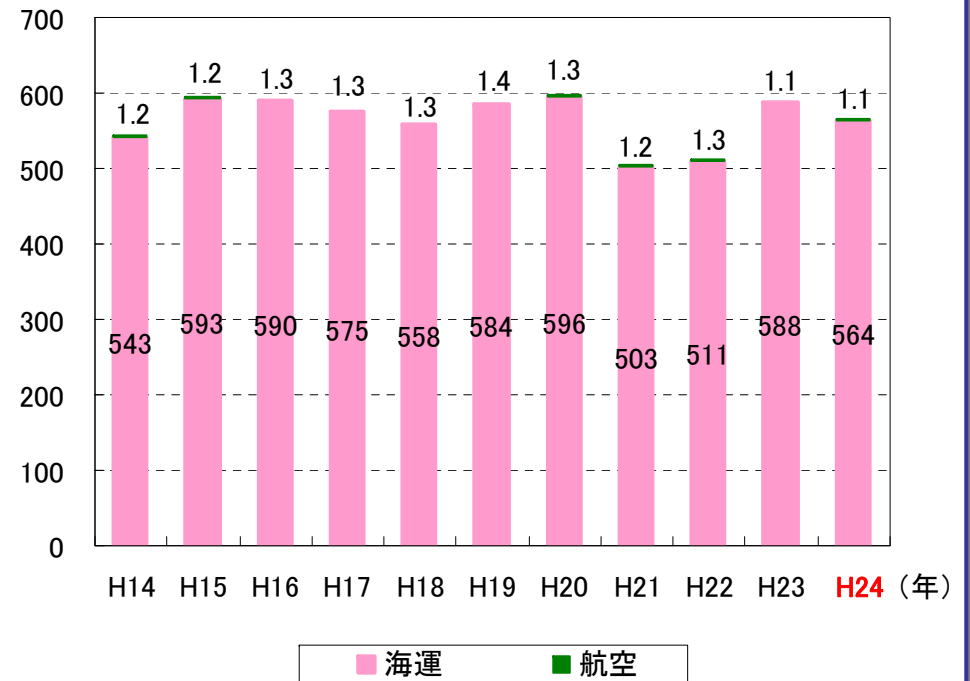


※ 国内貨物輸送の割合はトンキロベース

(出典:国土交通省「自動車輸送統計」、「鉄道輸送統計」、「内航船舶輸送統計」、「航空輸送統計」から作成)

## 国際貨物輸送量の推移

(百万トン)



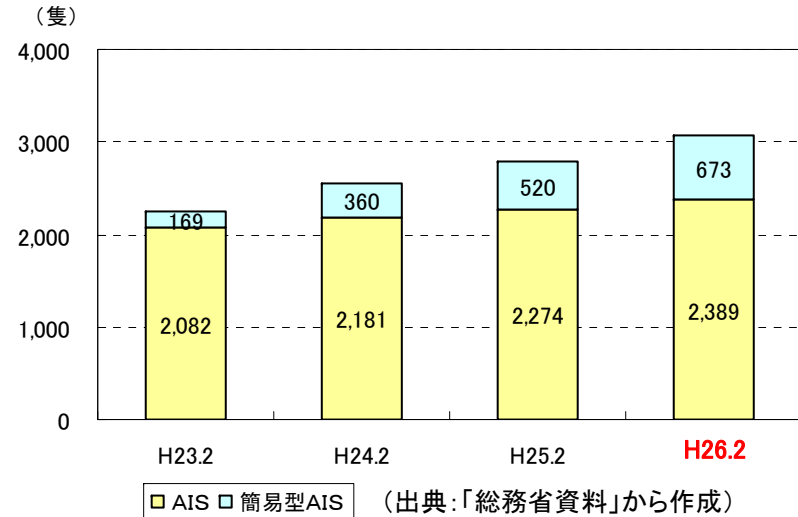
※ 平成24年の値は暫定値

(出典:国土交通省「海事レポート」、「航空輸送統計」から作成)

## AISの搭載義務化

国際航海に従事する船舶	すべての旅客船
	総トン数300トン以上のすべての船舶
国際航海に従事しない船舶	総トン数500トン以上のすべての船舶
上記以外のすべての船舶	<b>搭載義務なし</b>

## 日本籍船のAIS普及状況の推移



## 日本籍船の隻数

		平成23年	平成24年
一般船舶	内航船	5,357	5,302
	外航船	136	150
プレジャーボート	水上オートバイ	約66,000	約64,000
	モーターボート	約198,000	約190,000
	ヨット	約11,000	約11,000
漁船	漁船	252,665	254,052

データ年  
 内航船 : 年度末(出典:海事レポート 海事局)  
 外航船 : 6月末(出典:海事レポート 海事局)  
 漁船 : 年末(出典:漁船統計表 水産庁)  
 プレジャーボート : 年度末(出典:海事レポート 海事局)

単位: 隻数

## 航路標識整備事業費の推移

